

地域公共交通網形成計画策定に係る 基礎データについて②

- ・これまで実施したアンケート調査等の結果について

平成 2 8 年 8 月 1 0 日（水）

1. 過年度実施アンケート調査の実施状況

これまでのアンケート調査等の結果について

1. 過年度実施アンケート調査の実施状況

■調査概要

- 平成24年度は、市内全域を対象としたアンケート調査を実施しており、本市における公共交通の利用実態や路線バスの維持に対する市民意識等について調査を実施し、江別市における公共交通の改善の方向性を整理した。
- 江別市における公共交通の改善の方向性を受け、平成26年度には、野幌地区における利便性向上に向けて、翌年度の実証運行路線「野幌見晴台線」の運行につながるニーズの把握を行った。
- さらに、平成27年度は、野幌見晴台線の実証運行後、江別錦町線及び江別4番通線の沿線地域を対象にアンケート調査を実施し、路線バスへの要望や利用するための条件等の把握を行った。

▼過年度アンケート調査の概要

実施年度	対象範囲	配布・回収	主な調査項目
H24	市全域	配 布：4,725票 回 収：1,844票 回収率：39.0%	属性：居住地/性別/年齢/職業/世帯構成/車両及び免許保有状況/運転意向 移動実態：手段別・夏冬別・選択理由 路線バス利用状況：利用経験/バス停までの移動手段・距離/支払方法/ 待ち時間/目的別・行き先・頻度・時間帯・選択理由 サービスレベル：利用する事業者/満足度 路線バスを利用しない方：利用しない理由/共通乗車券ができた場合の意向/ 高齢になった場合の意向/ 市内路線バスの課題：運賃/利用者減少の認知/赤字運行の認知/ 路線バスの維持/市民負担/維持すべき理由/運行の効率化策 交通に関する意識：自動車利用抑制/公共交通利用意向
H26	野幌地区	配 布：3,000票 回 収： 930票 回収率：31.0%	属性：居住地/性別/年齢/職業/世帯構成/車両及び免許保有状況/運転意向 移動実態：目的/行き先/手段（夏冬別）/頻度/時間帯 路線新設：希望する路線/利用意向/目的/頻度/時間帯 交通に関する意識：自動車利用抑制/公共交通利用意向
H27	江別錦町線及び 江別4番通線 沿線地域	配 布：8,620票 回 収：3,411票 回収率：22.2%	属性：年齢 路線バス利用実態：頻度/時間帯/最寄停留所/降車停留所/目的/要望等 非利用者におけるバス利用のための条件

2. 平成24年度実施アンケート調査

これまでのアンケート調査等の結果について

2. 平成24年度実施アンケート調査

■調査結果概要

- ・市内全域を対象とした調査を実施し、市内を9つのエリアに分けて集計・分析。

交通手段選択の理由

- ・路線バスを利用する理由は、「徒歩や自転車では距離が遠すぎる」、「他に利用できる交通手段がない」といった移動の制約に関する意見の他に「運行便数が多く、いつでも利用できる」、「最もお金がかからず移動できる」といった利便性に関する意見が多く挙げられている。(P.7)
- ・一方、自家用車を利用する理由は、「荷物を運ぶのに便利」、「最も短時間で移動できる」、「自分の都合に合わせて移動できる」といった利便性に関する意見が多く挙げられている。(P.7)

路線バスの利用頻度

- ・路線バスの利用頻度は、「通勤・通学」が「ほぼ毎日」、「週に3～4日」といった日常的な利用が見られるのに対し、「買い物」は「週に1～2日」、「通院」は「月に1～2日」や「年に数日」といった回答が多くを占めている。(P.8)

サービス満足度

- ・路線バスのサービス満足度は、「停留所までの距離」や「乗り心地」といった項目の評価が高くなっている。極端に評価の低い項目は見られないが、他の項目と比較して評価の低い項目は、「運行便数」、「終発時刻」、「バスの遅れ」、「待合施設」となっている。(P.9)
- ・各サービス満足度が全体評価に与える影響から導き出した重点改善分野には、「運行便数」、「乗り継ぎ」、「運行状況に関する情報」、「バス事業者が提供している情報」が該当しており、改善による全体評価の向上が見込まれる項目となっている。(P.10)

路線バスを利用しない理由

- ・路線バスを利用していない理由は、車の利用を除くと、「運行本数が少ない」との回答が最も多く、次いで「利用したい時間とバスのダイヤが合わない」、「他の交通手段と比べて時間がかかる」といったサービスに関する項目が挙げられている。また、「どのバスに乗れば良いのかわからない」、「どのくらい時間がかかるのかわからない」といった情報提供に関する理由や、「乗り換えや乗り継ぎが不便」といった回答も多くなっている。(P.11)

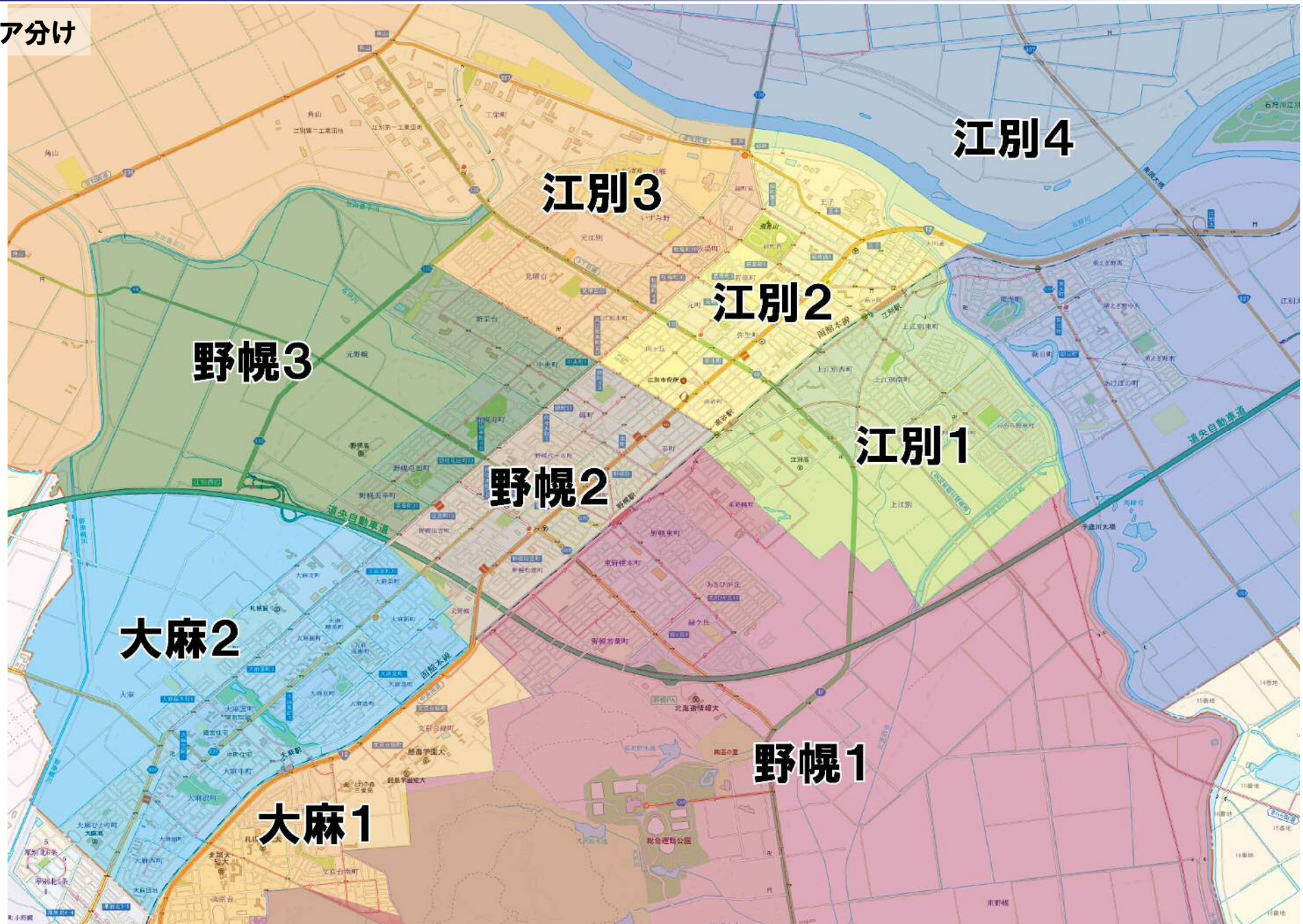
江別市内の路線バスについて

- ・路線バスの維持については、継続的に赤字となっているバス路線についても今後も「維持すべき」との意見が多いが、「市民負担が増えない範囲で維持」との回答が約7割を占めている。また、維持すべき理由としては、「交通弱者には必要な交通手段」であるとの回答が最多となっている。(P.12)
- ・市内の路線バスの今後の在り方としては、「コミュニティバスのような運行」、「JRに乗り継ぎしやすい路線」、「公共施設に行きやすい路線」といった運行経路に関する回答が多くなっている。また、「バスマップを充実すべき」、「バスに関する情報提供を充実すべき」といった情報提供に関する回答も多くなっている。(P.13)

これまでのアンケート調査等の結果について

2. 平成24年度実施アンケート調査

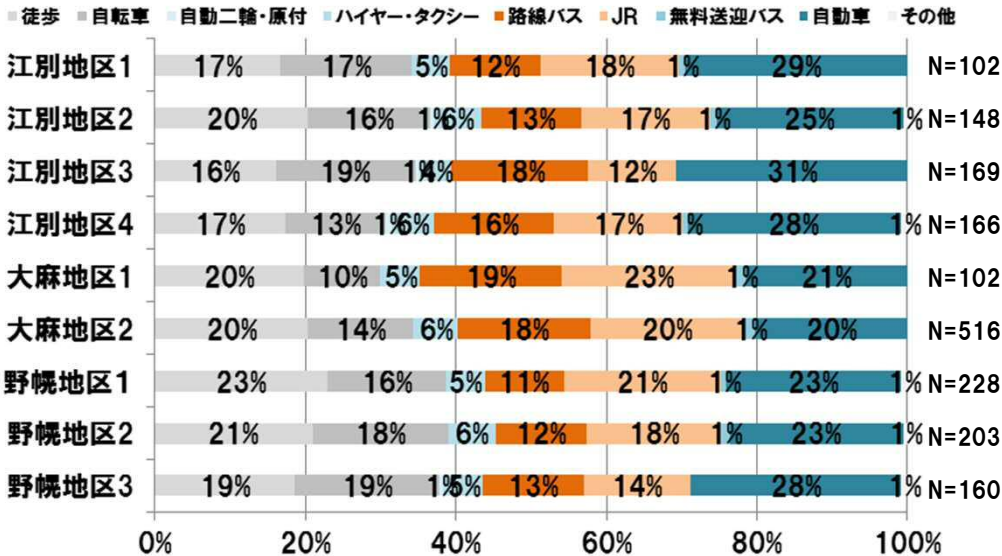
■エリア分け



これまでのアンケート調査等の結果について

2. 平成24年度実施アンケート調査

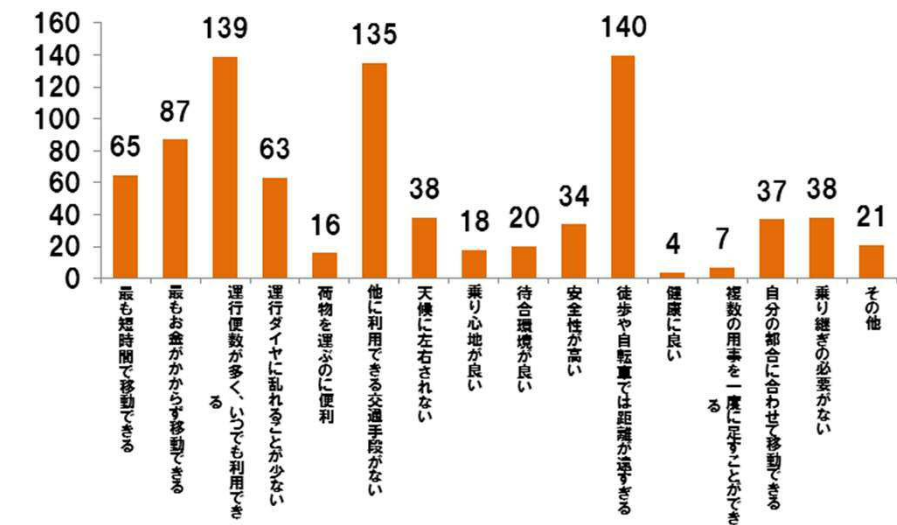
■夏期の交通手段



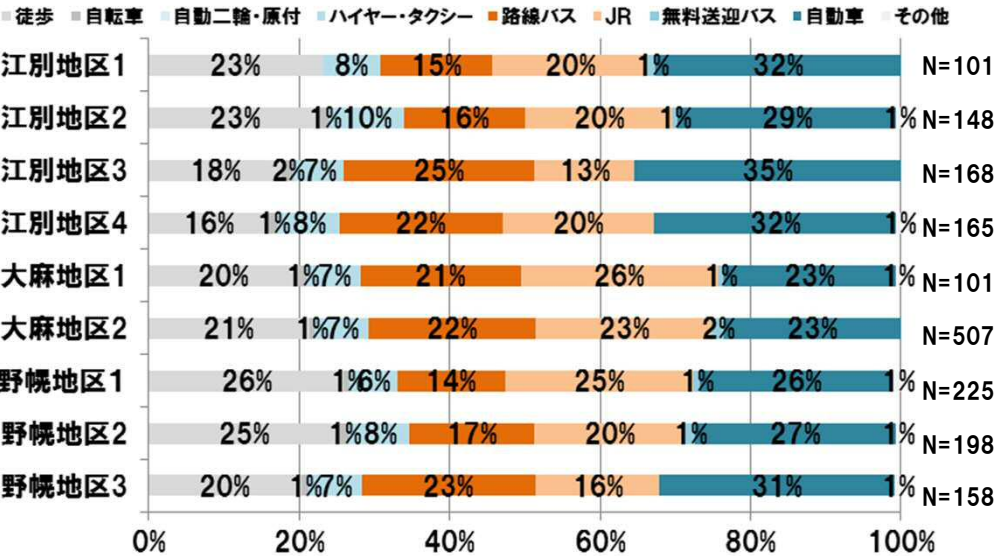
(複数回答、無回答を除く)

■路線バスを利用する理由(夏期)

N=545(複数回答)



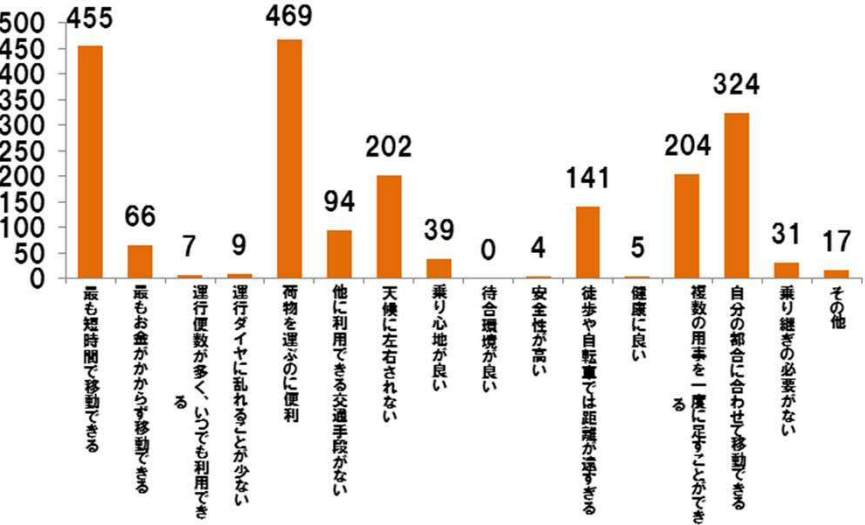
■冬期の交通手段



(複数回答、無回答を除く)

■自動車を利用する理由(夏期)

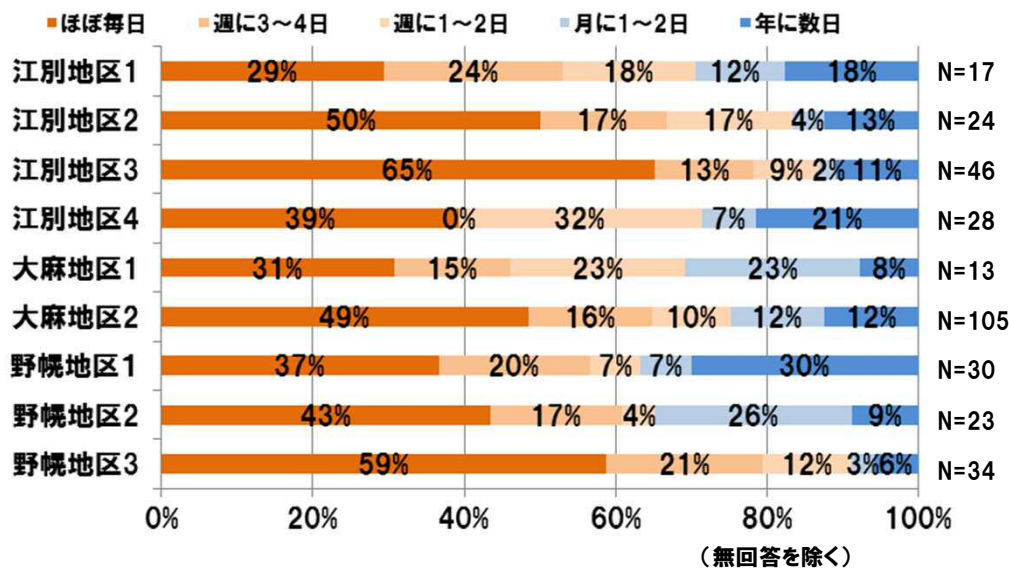
N=954(複数回答)



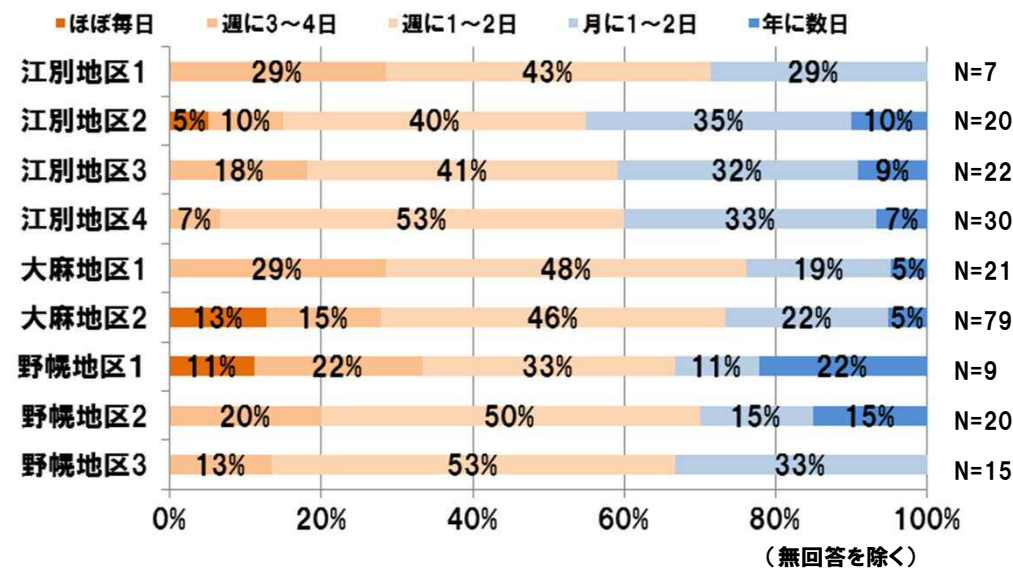
これまでのアンケート調査等の結果について

2. 平成24年度実施アンケート調査

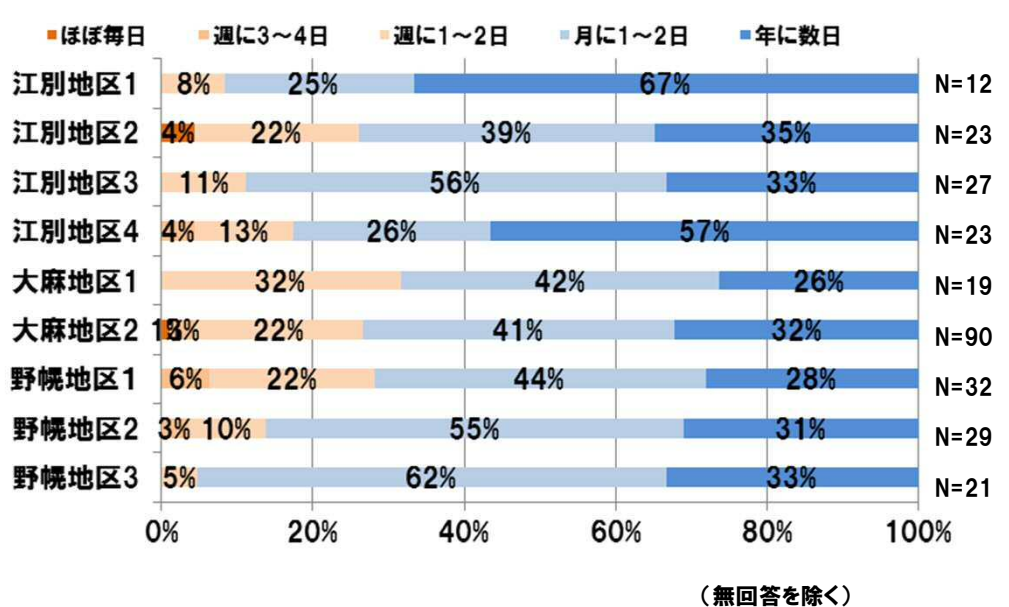
■路線バス利用頻度(通勤・通学)



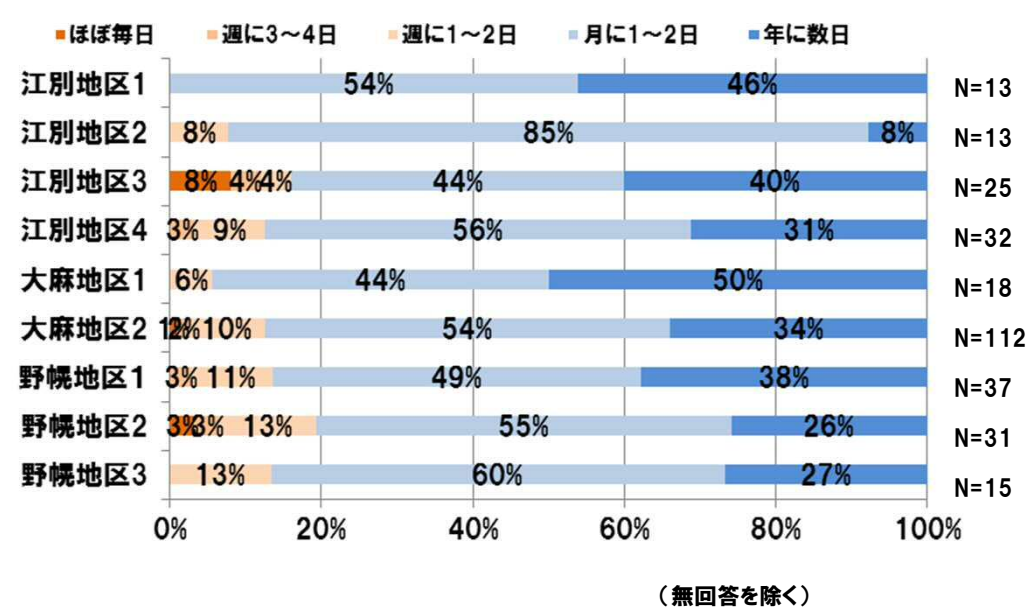
■路線バス利用頻度(日常的な買い物)



■路線バス利用頻度(その他の買い物)



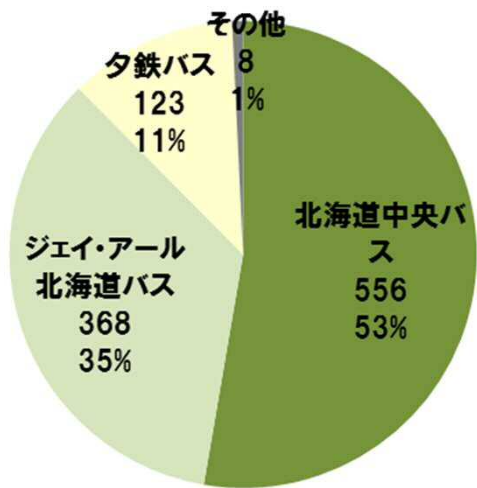
■路線バス利用頻度(通院)



これまでのアンケート調査等の結果について

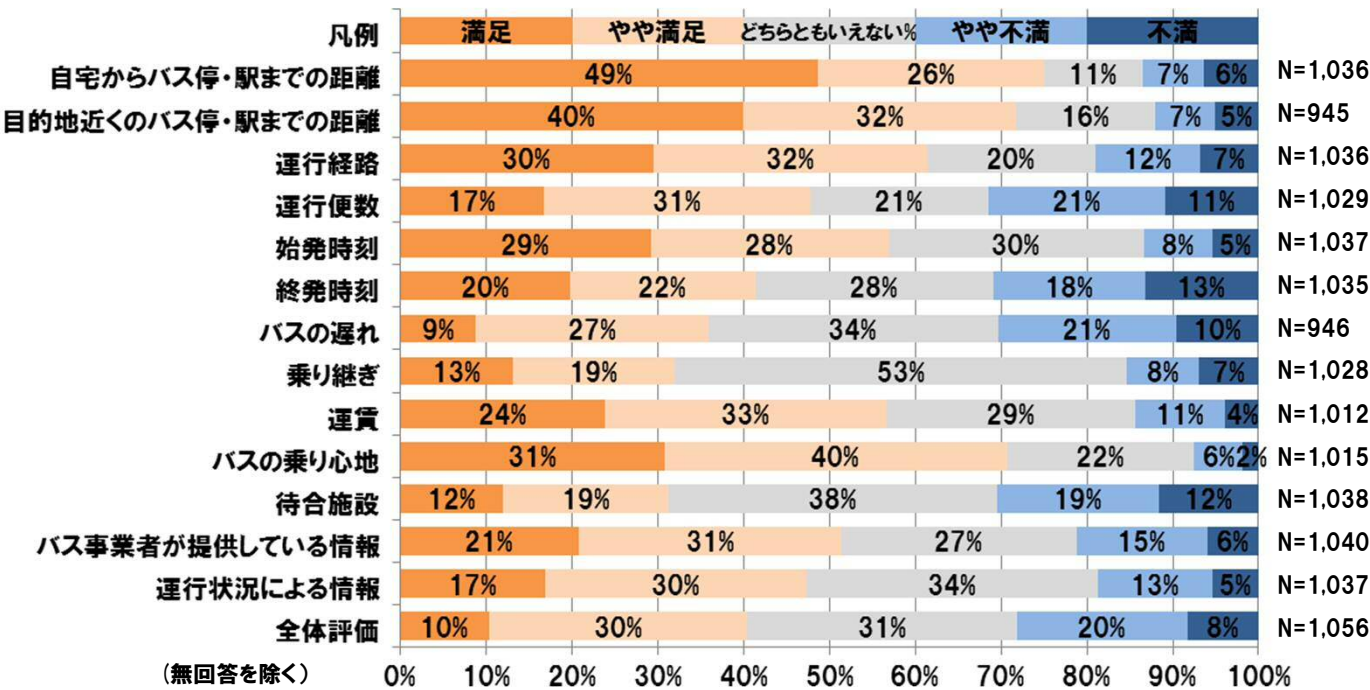
2. 平成24年度実施アンケート調査

よく利用するバス事業者



N=1,055 (無回答を除く)

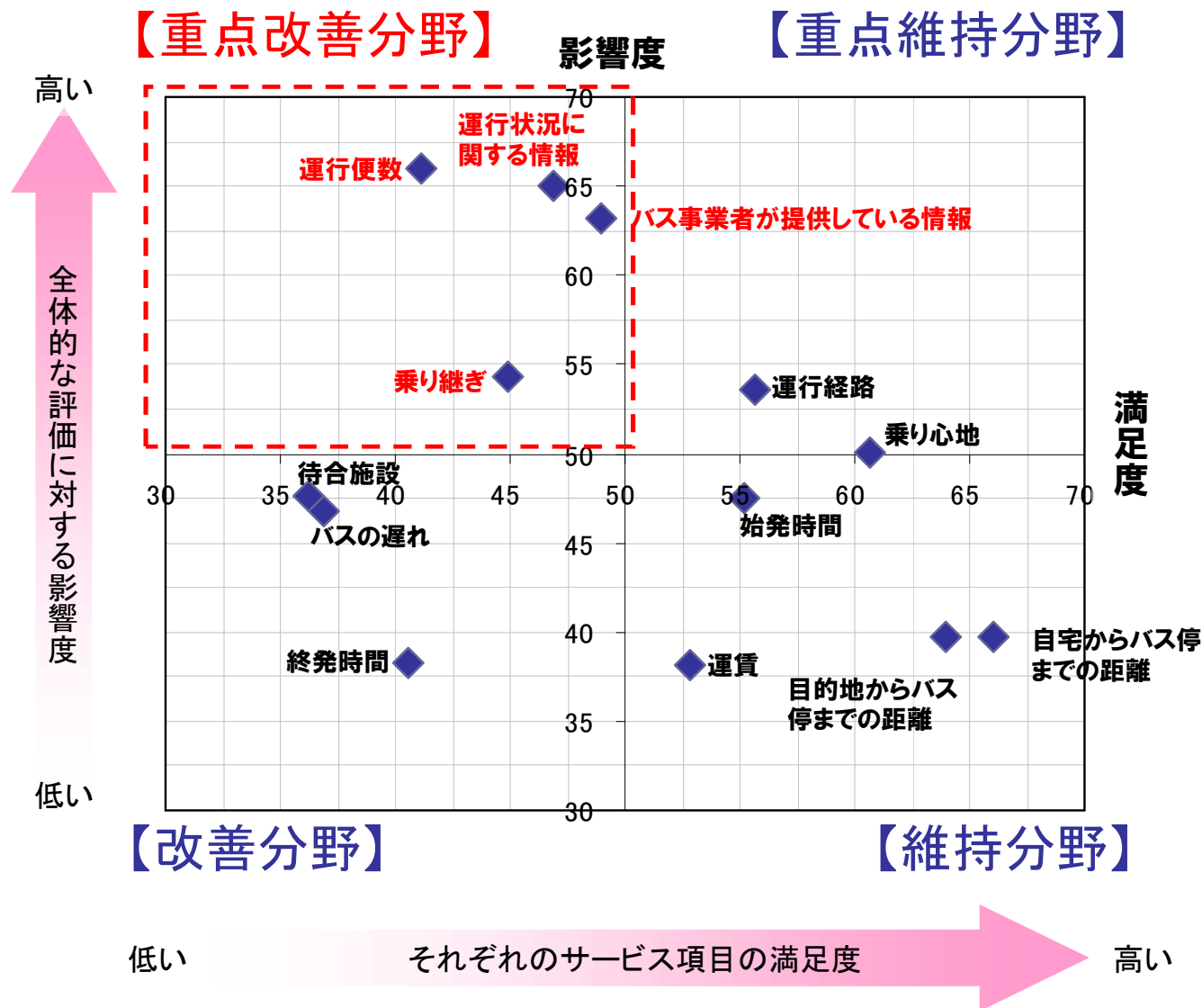
サービス満足度



これまでのアンケート調査等の結果について

2. 平成24年度実施アンケート調査

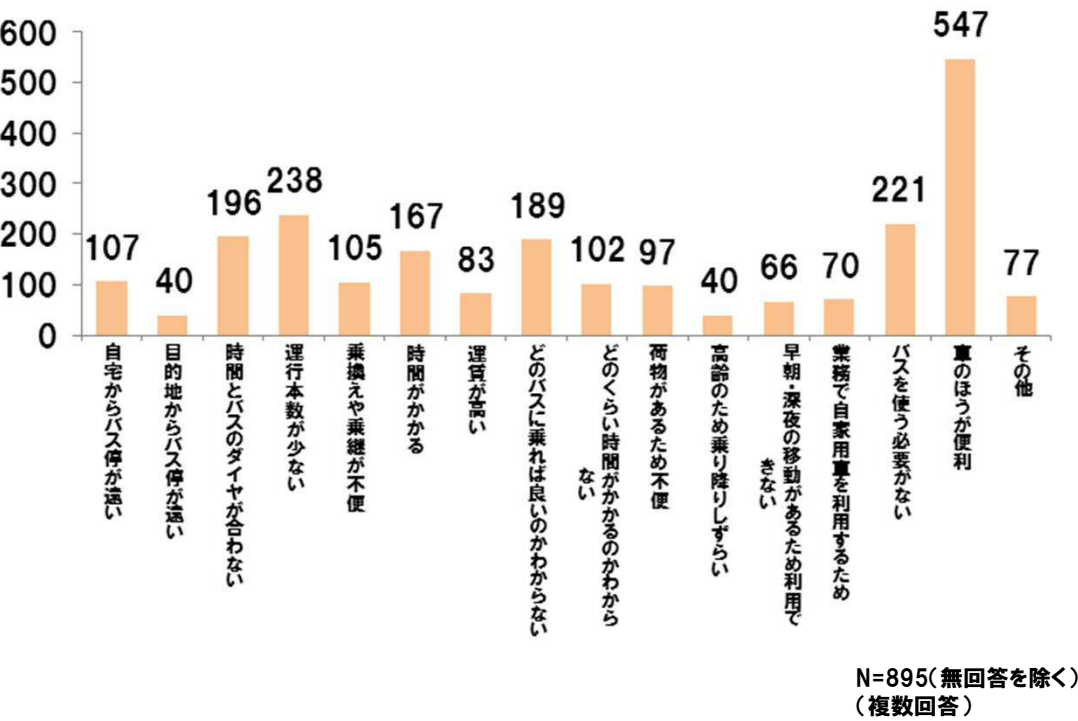
■CSポートフォリオ分析(江別市全体)によるバスサービスの課題



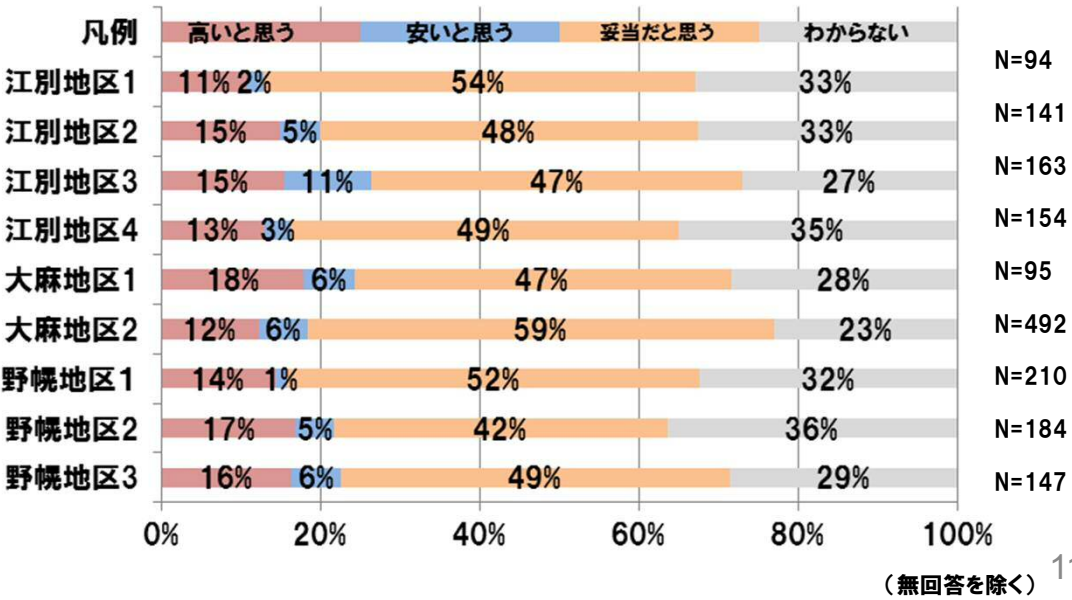
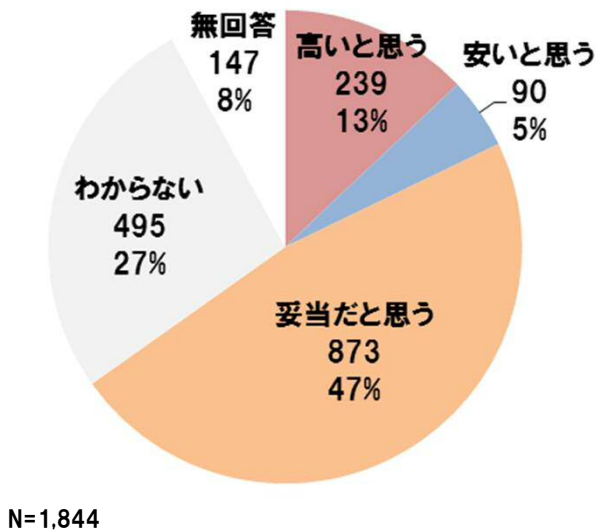
これまでのアンケート調査等の結果について

2. 平成24年度実施アンケート調査

■路線バスを利用していない理由



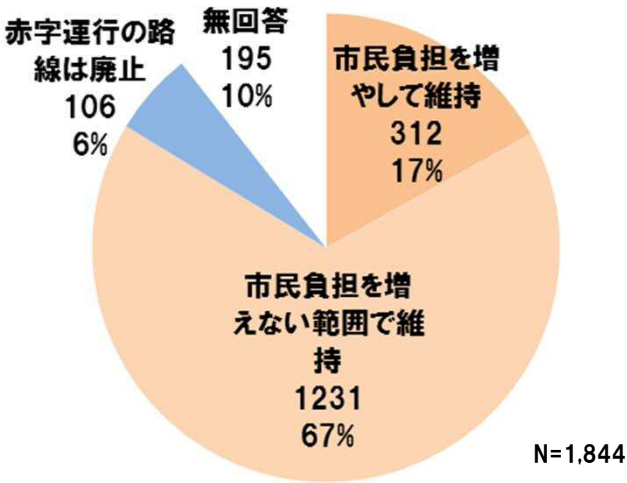
■路線バスの運賃について



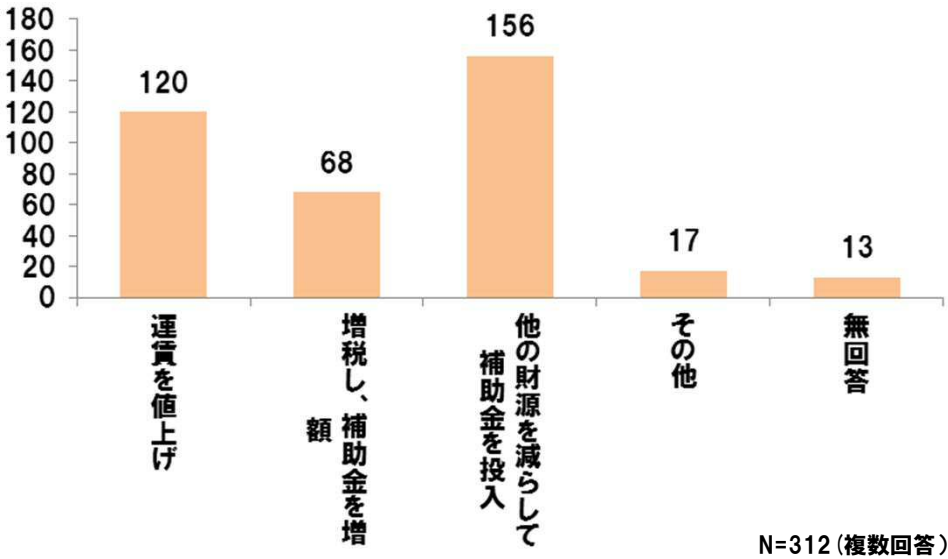
これまでのアンケート調査等の結果について

2. 平成24年度実施アンケート調査

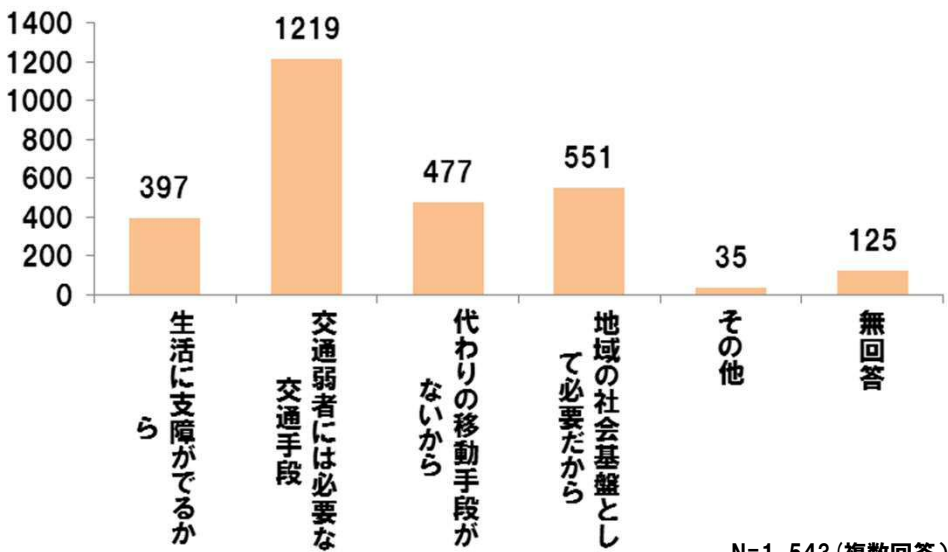
■赤字運行となっている路線バスの今後



■具体的な市民負担の内容



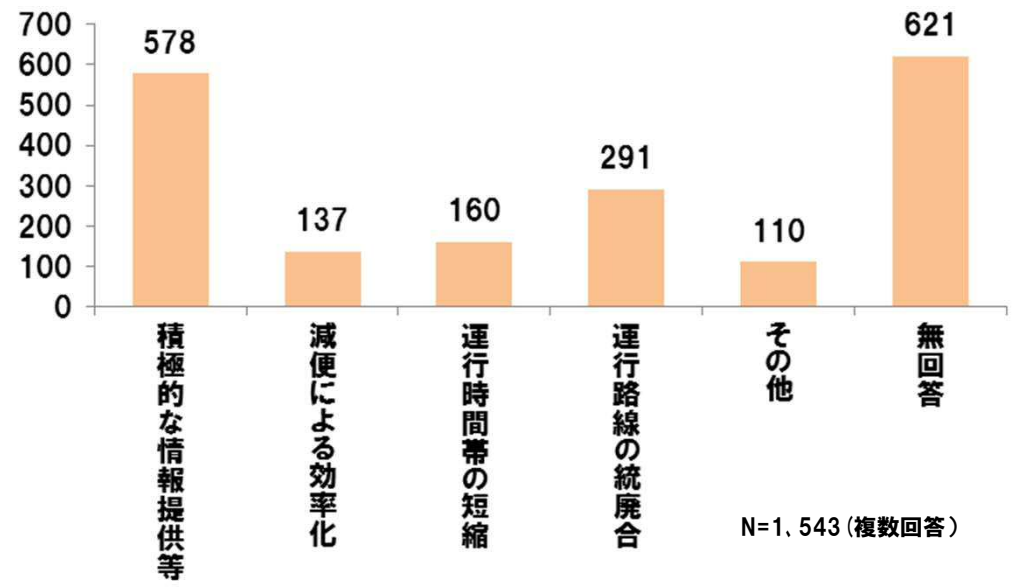
■路線バスを維持すべき理由



これまでのアンケート調査等の結果について

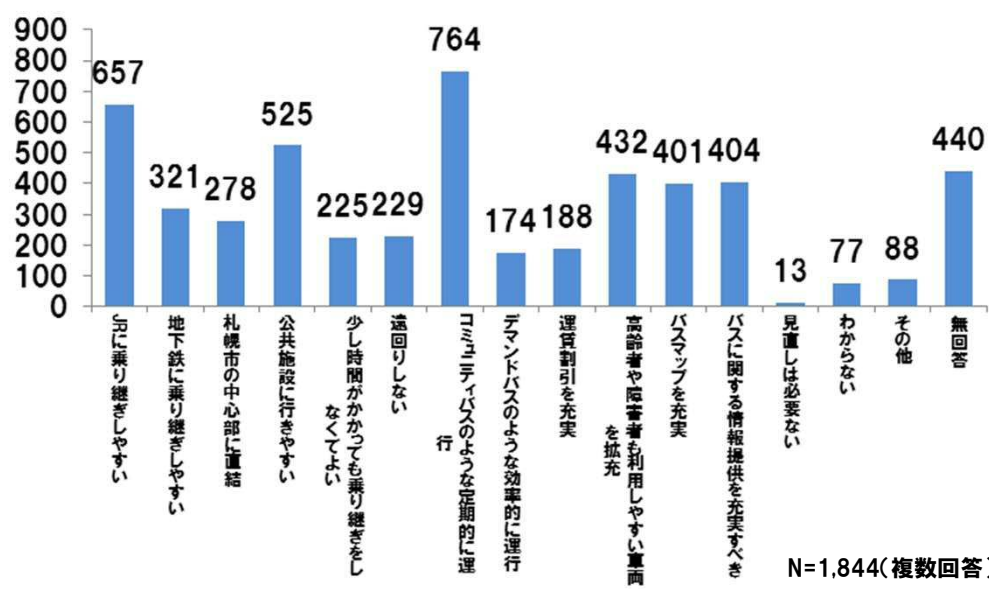
2. 平成24年度実施アンケート調査

■バス運行の効率化策



N=1,543 (複数回答)

■江別市内の路線バスの今後



N=1,844(複数回答) 13

3. 平成26年度実施アンケート調査(野幌地区)

これまでのアンケート調査等の結果について

3. 平成26年度実施アンケート調査(野幌地区)

■調査結果概要

・JR野幌駅へのアクセス向上に対するニーズが高いと考えられる野幌駅の北側地区と南側地区を対象に調査を実施。

通勤・通学

・通勤・通学先は、野幌駅北側地区と南側地区共に、約半数が市外への移動となっており、札幌市へのアクセスが全体の約4割を占めている。
(P.16～17)

・札幌市への通勤・通学における交通手段は、北側地区では自家用車が約3割で最多となっており、南側地区では約3割でJRが最多となっている。
また、路線バスによる札幌市へのアクセスは、両地区ともに約3%となっている。(P.18)

通院

・通院先は、北側地区では市立病院等が立地する江別地区へのアクセスが約3割で最多となっている。一方で、札幌市や北側地区内、野幌地区へのアクセスも存在しており、通院先は分散している。南側地区は、南側地区内が最多となっており、札幌市、江別地区、野幌地区へのアクセスが存在している。(P.20)

・北側の見晴台地区では、各方面への通院時の交通手段は、自家用車がメインとなっており、江別地区へのアクセスに路線バスが1割程度利用されている。(P.21)

・南側のあさひが丘地区では、市内へのアクセスは自家用車、札幌市へのアクセスにはJRが多く利用されている。(P.22)

買い物

・食料品や日用品などの買い物先は、両地区とも地区内への移動が最多となっており、次いで、野幌地区の順となっている。(P.23)

・北側の見晴台地区では、北側地区内で自家用車を利用した買い物移動がメインとなっている。(P.24)

・南側のあさひが丘地区では、北側地区内で自家用車を利用した買い物移動が多くなっており、徒歩・自転車の利用も見られる。路線バスを利用した移動は見られなかった。(P.25)

路線バスを新設した場合に希望する路線

・北側地区では「野幌駅までの所要時間が短縮された路線」へのニーズが高くなっている。(P.26)

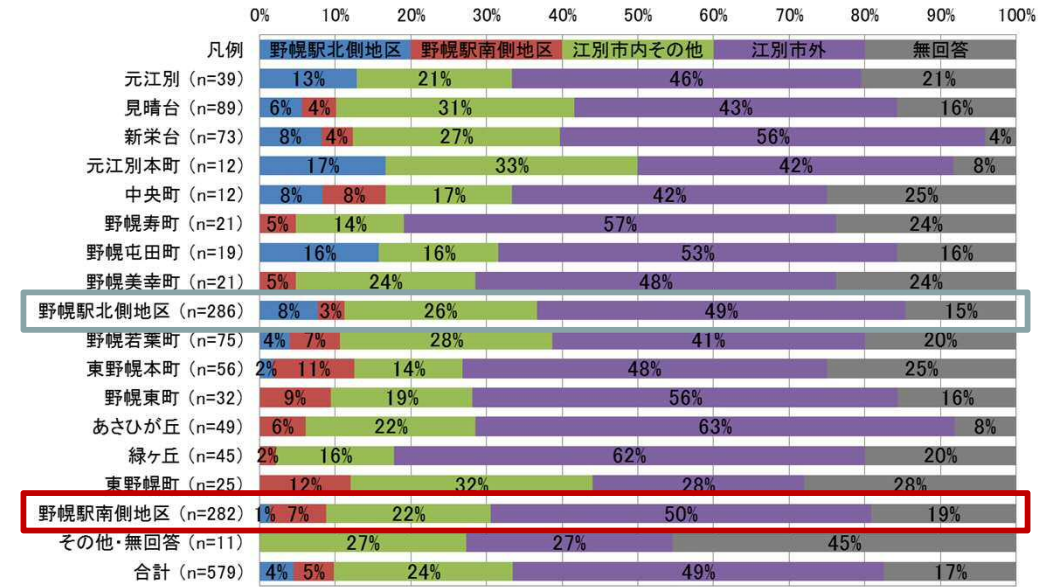
・南側地区では「新さっぽろ駅までの所要時間が短縮された路線」へのニーズが高くなっている。(P.26)

・上記の回答に次いで「江別市内の商業施設や医療施設、公的施設を隈なく巡る路線」への回答も多くなっている。(P.26)

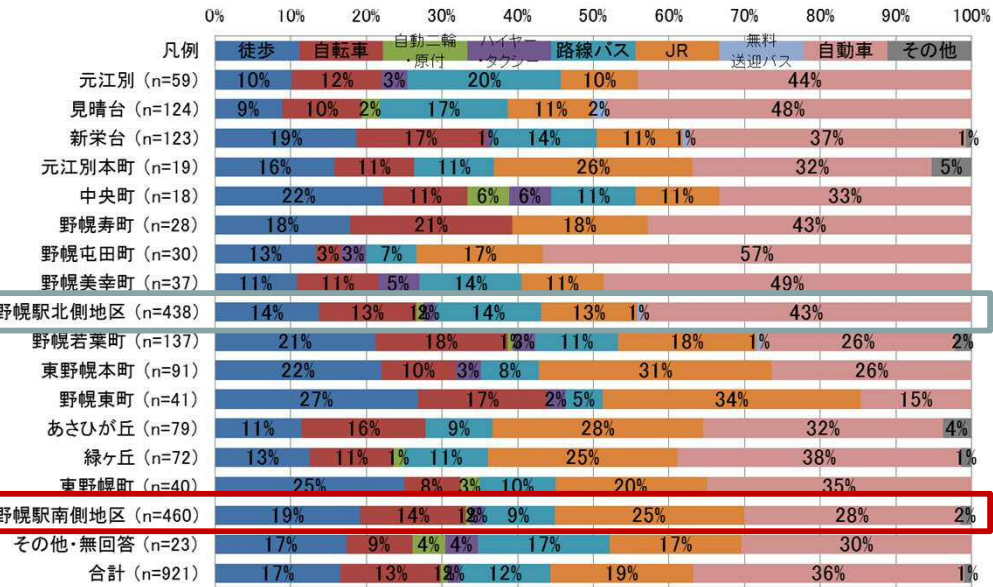
これまでのアンケート調査等の結果について

3. 平成26年度実施アンケート調査(野幌地区)

■通勤・通学先



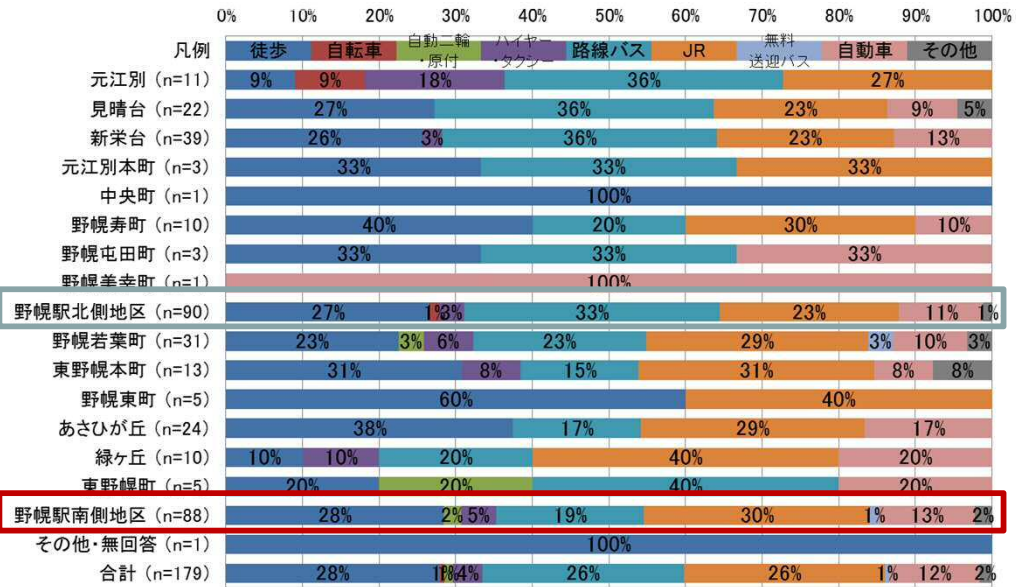
■普段の移動手段



▼江別市外の通勤・通学先

	江別市外計			
	北側地区	南側地区	その他	
札幌市	248	122	123	3
北広島市	9	6	3	0
岩見沢市	8	3	5	0
恵庭市	5	3	2	0
長沼町	4	2	2	0
小樽市	3	1	2	0
当別町	3	2	1	0
千歳市	2	1	1	0
南幌町	2	1	1	0
新篠津村	2	1	1	0
大阪市	1	0	1	0
雨竜町	1	0	1	0
栗山町	1	1	0	0
栗沢町	1	0	1	0
合計	290	143	144	3

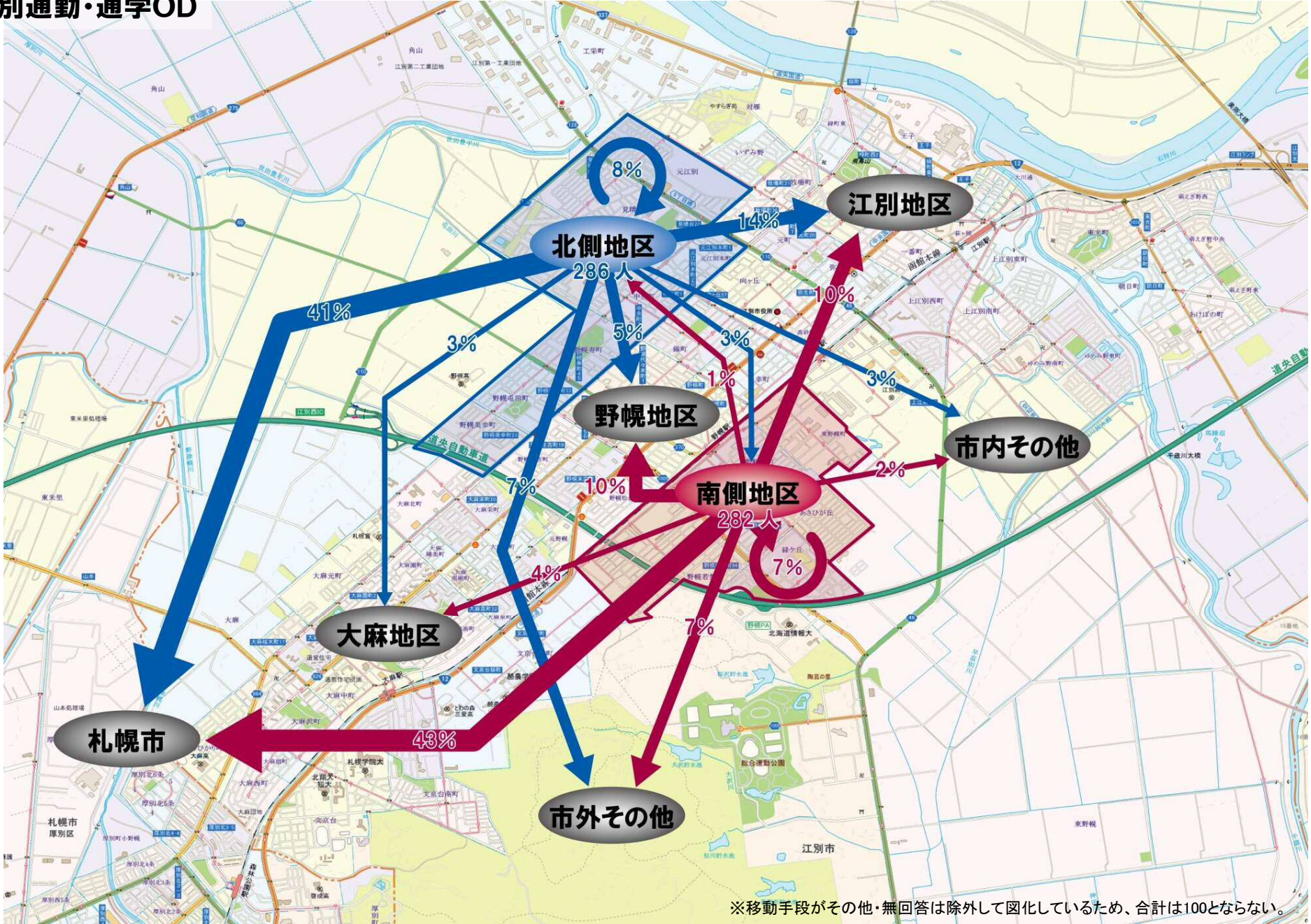
■冬期の移動手段



これまでのアンケート調査等の結果について

3. 平成26年度実施アンケート調査(野幌地区)

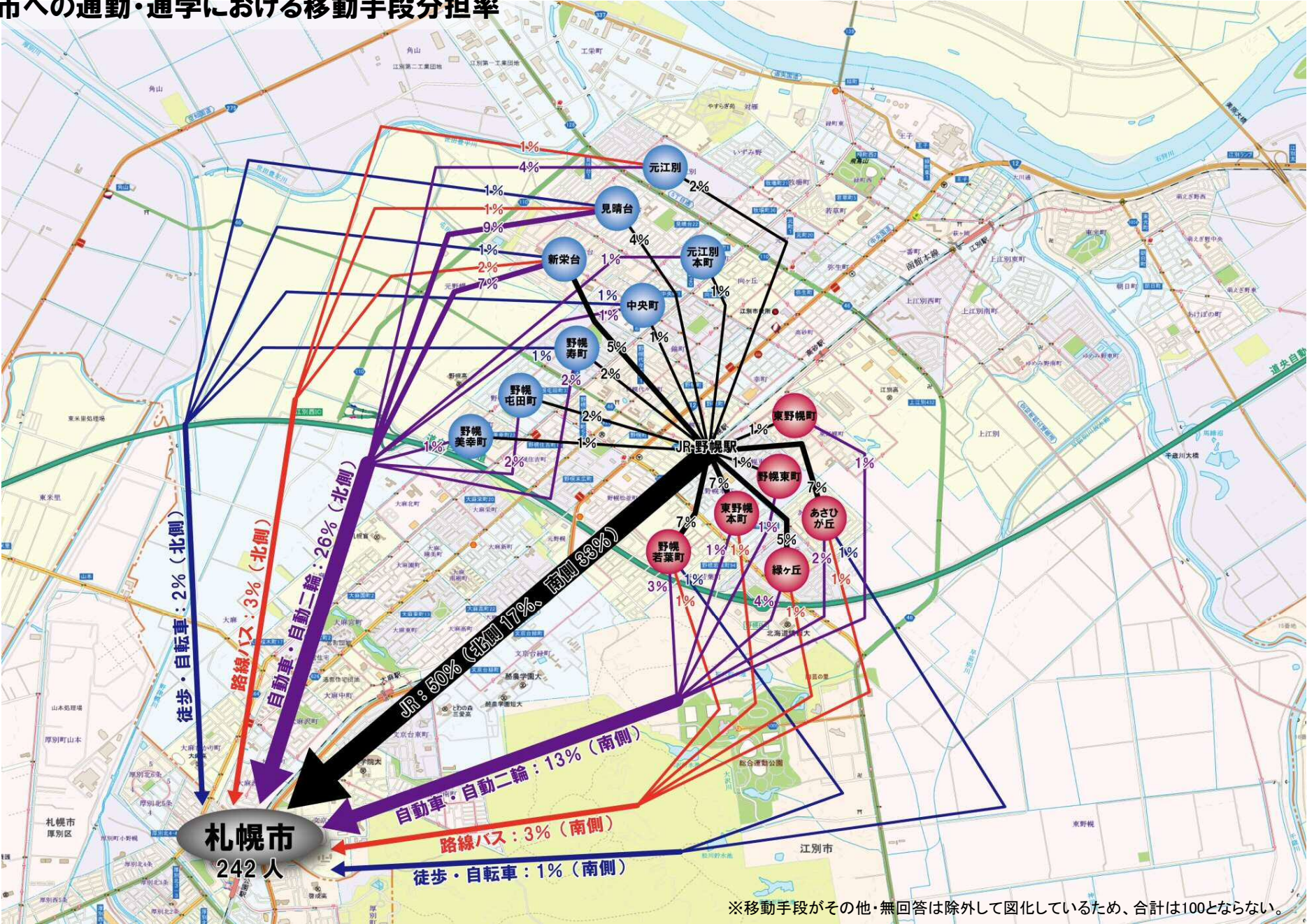
■地区別通勤・通学OD



これまでのアンケート調査等の結果について

3. 平成26年度実施アンケート調査(野幌地区)

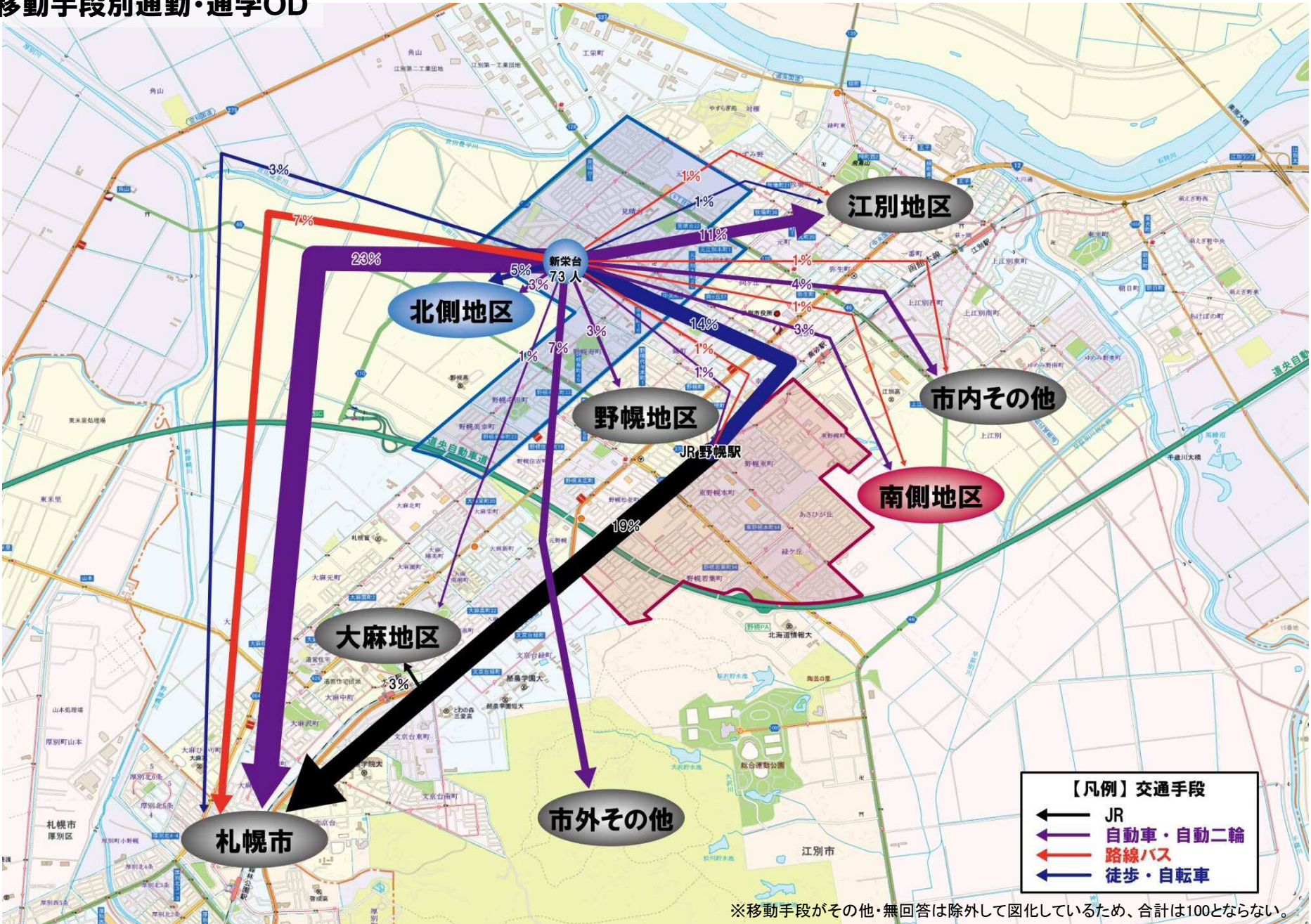
■札幌市への通勤・通学における移動手段分担率



これまでのアンケート調査等の結果について

3. 平成26年度実施アンケート調査(野幌地区)

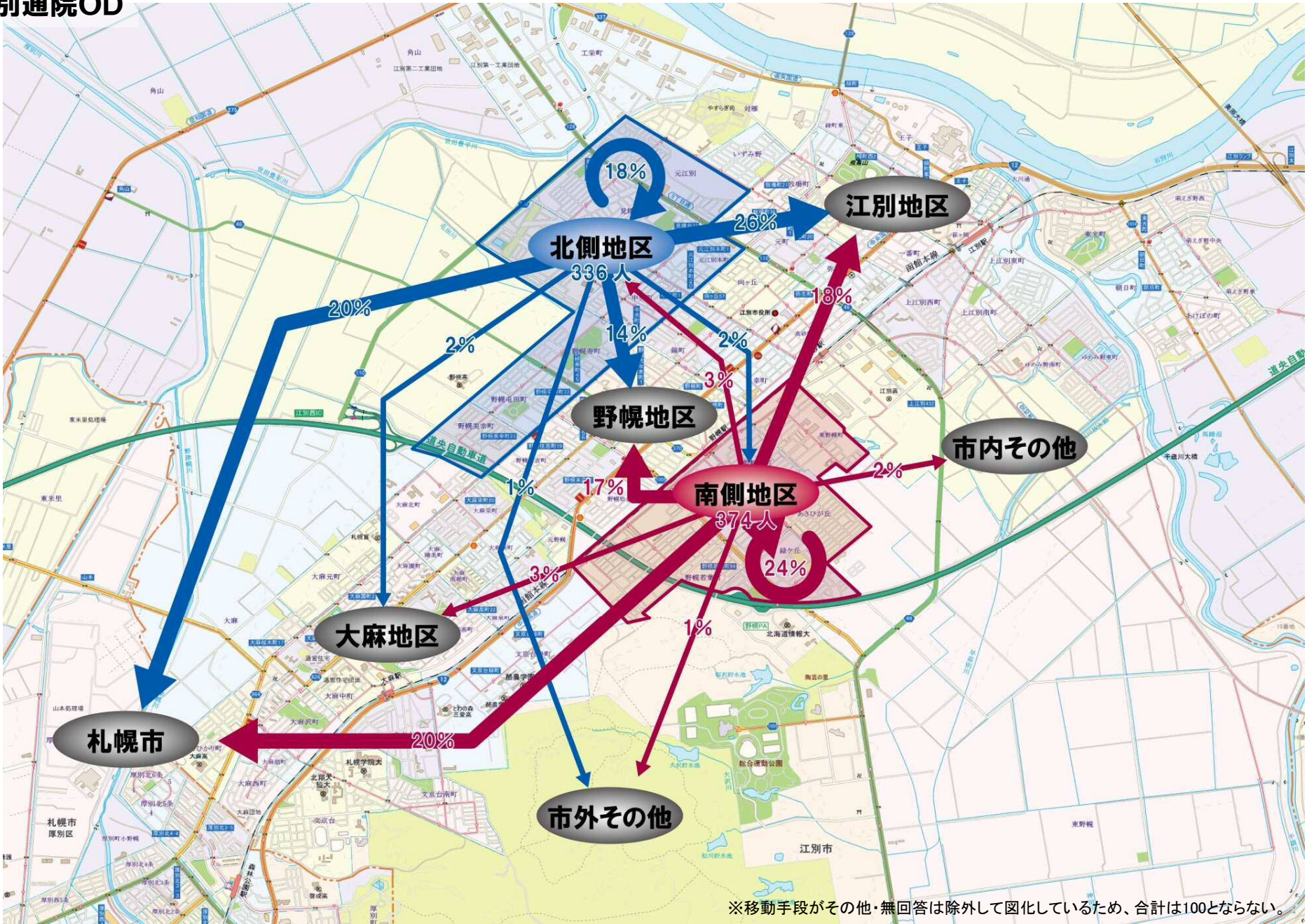
町別移動手段別通勤・通学OD



これまでのアンケート調査等の結果について

3. 平成26年度実施アンケート調査(野幌地区)

■地区別通院OD

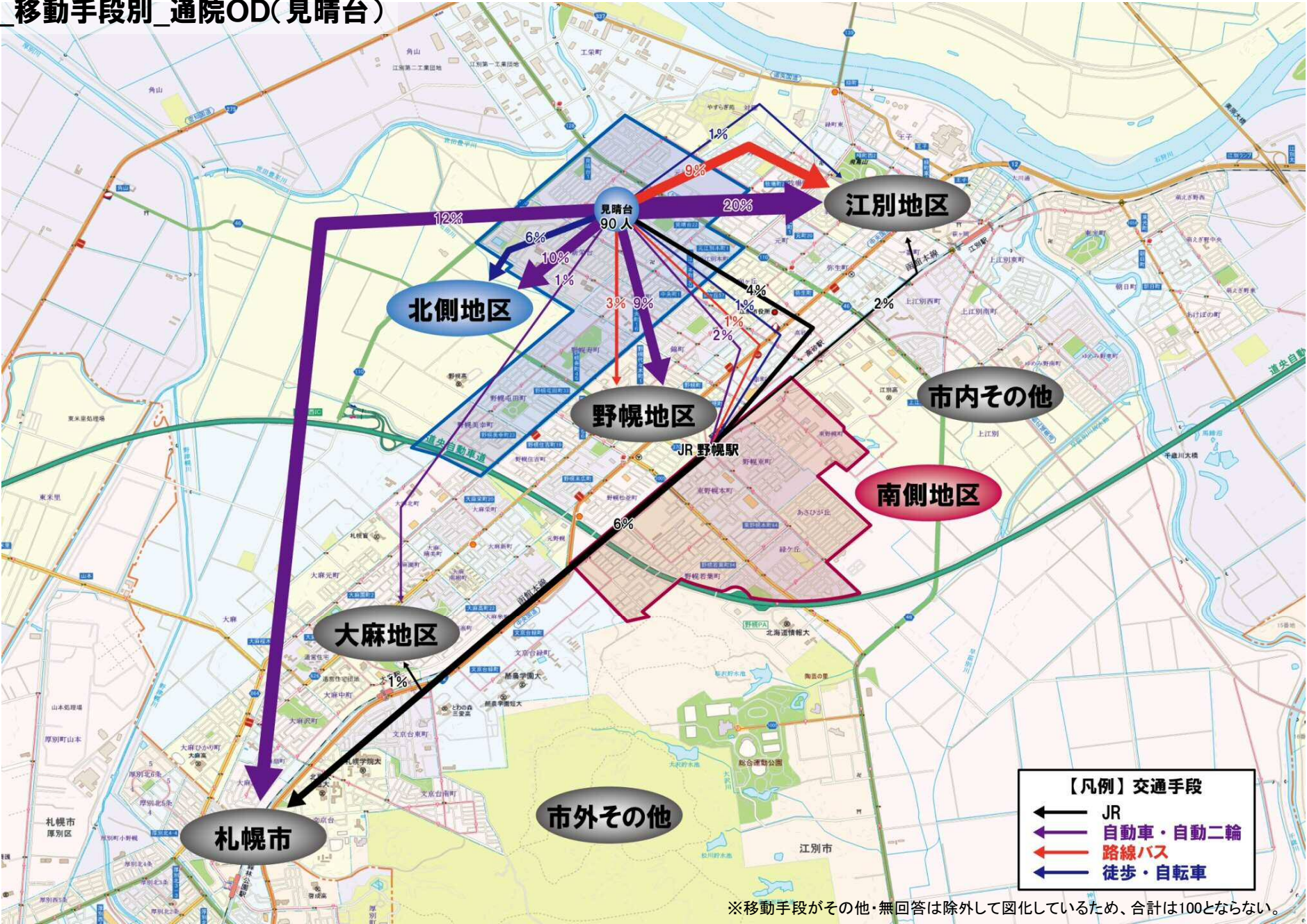


※移動手段がその他・無回答は除外して図化しているため、合計は100とならない。

これまでのアンケート調査等の結果について

3. 平成26年度実施アンケート調査(野幌地区)

町別_移動手段別_通院OD(見晴台)

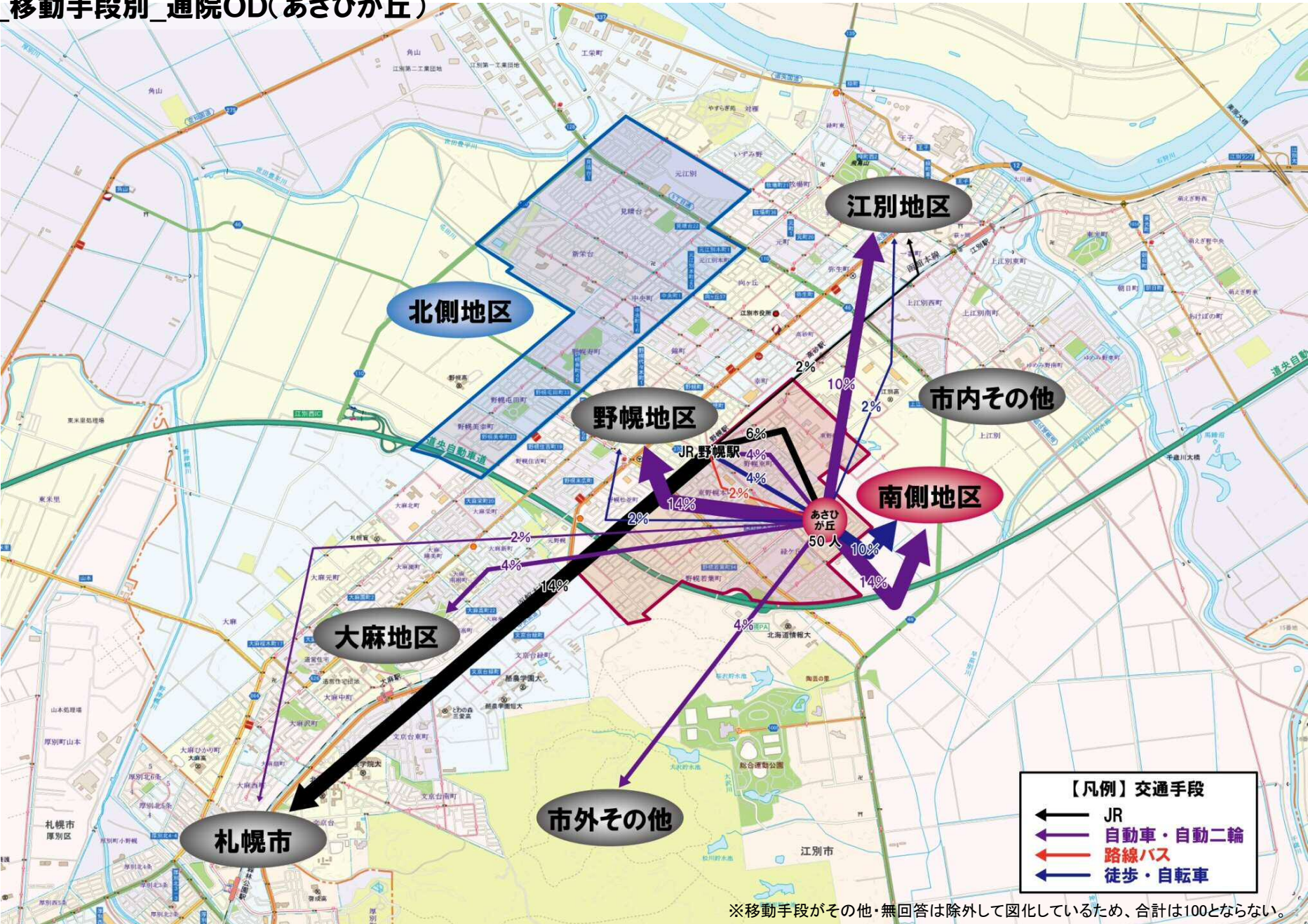


※移動手段がその他・無回答は除外して図化しているため、合計は100とならない。

これまでのアンケート調査等の結果について

3. 平成26年度実施アンケート調査(野幌地区)

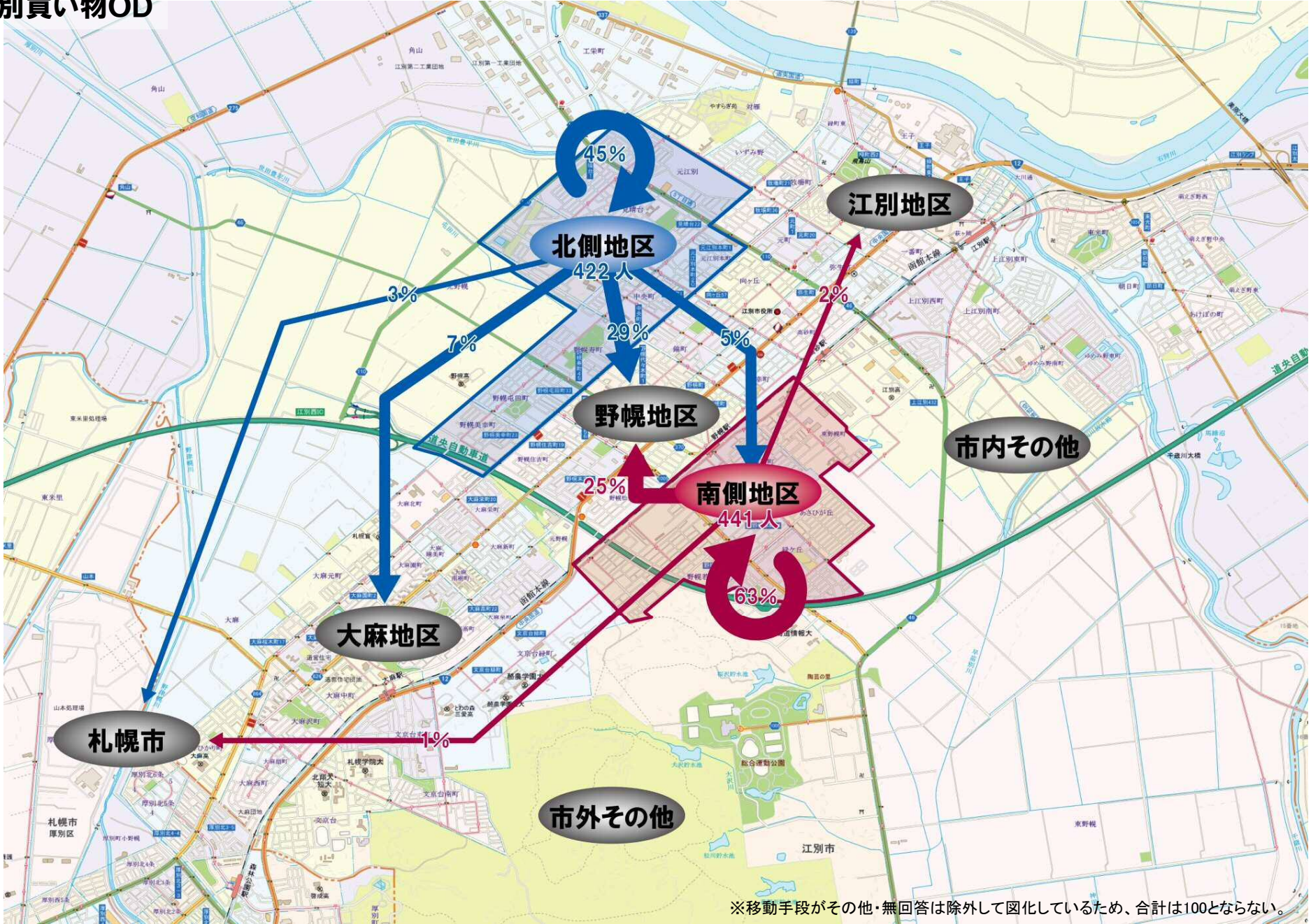
町別_移動手段別_通院OD(あさひが丘)



これまでのアンケート調査等の結果について

3. 平成26年度実施アンケート調査(野幌地区)

■地区別買い物OD

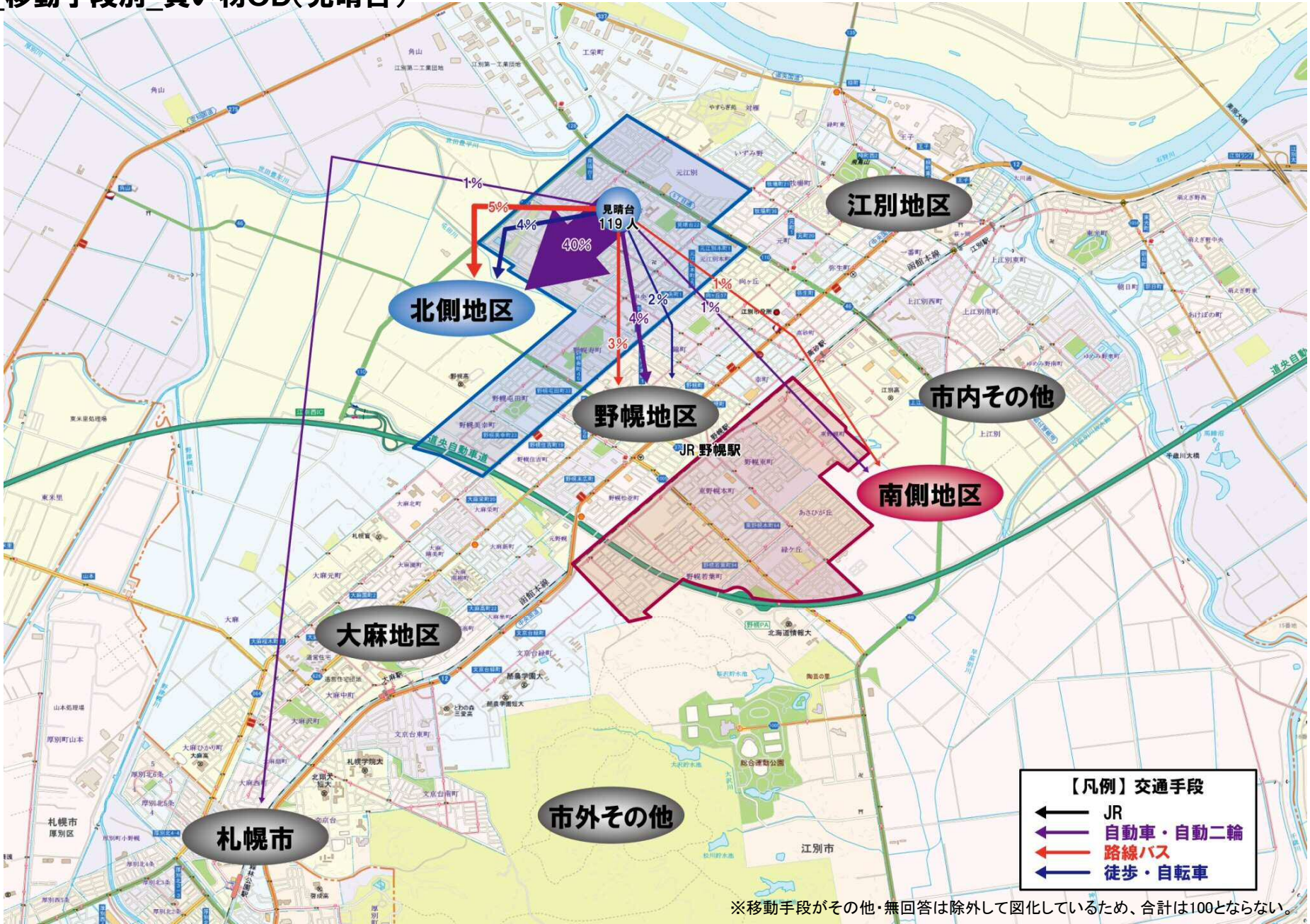


※移動手段がその他・無回答は除外して図化しているため、合計は100とならない。

これまでのアンケート調査等の結果について

3. 平成26年度実施アンケート調査(野幌地区)

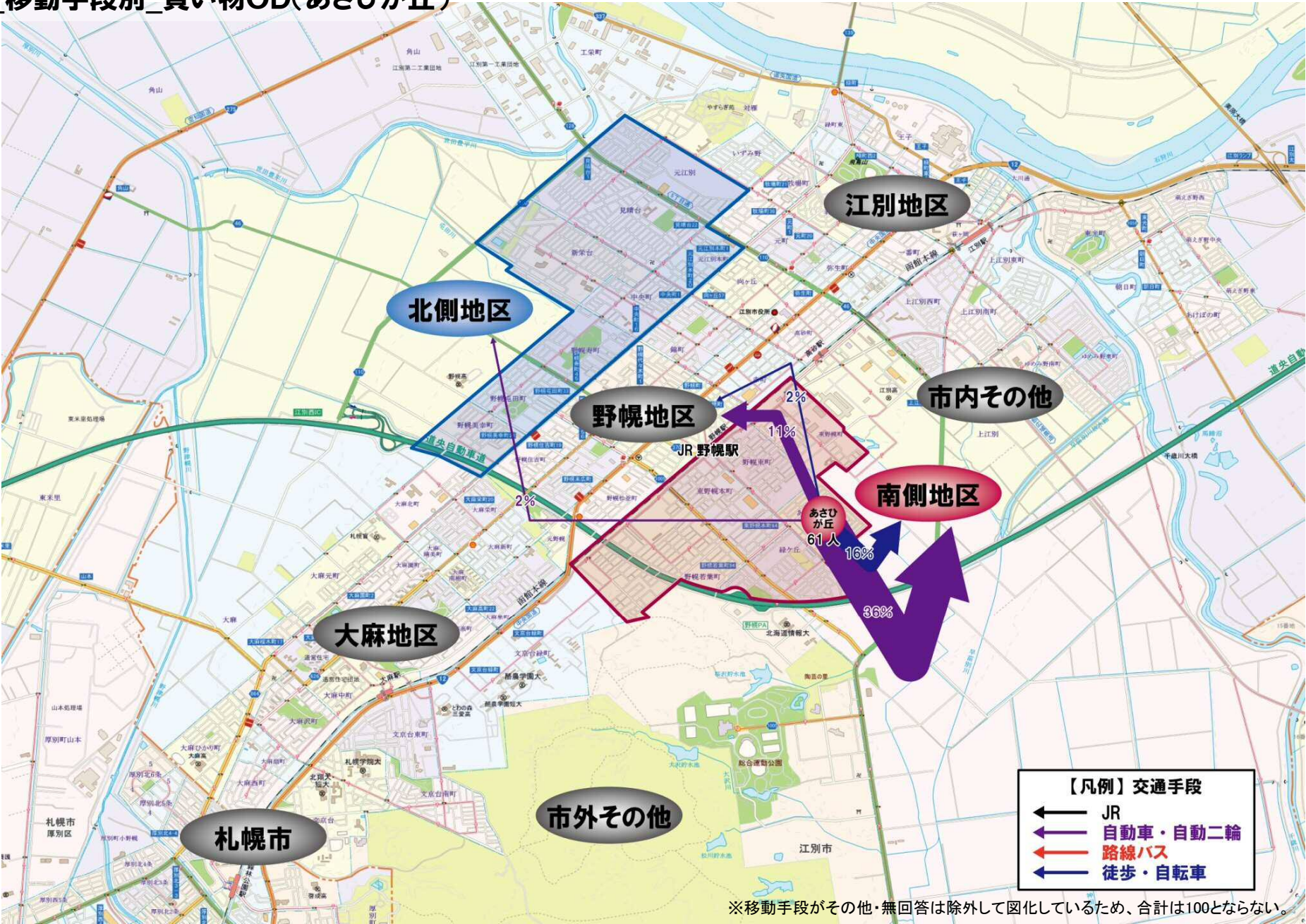
■町別_移動手段別_買い物OD(見晴台)



これまでのアンケート調査等の結果について

3. 平成26年度実施アンケート調査(野幌地区)

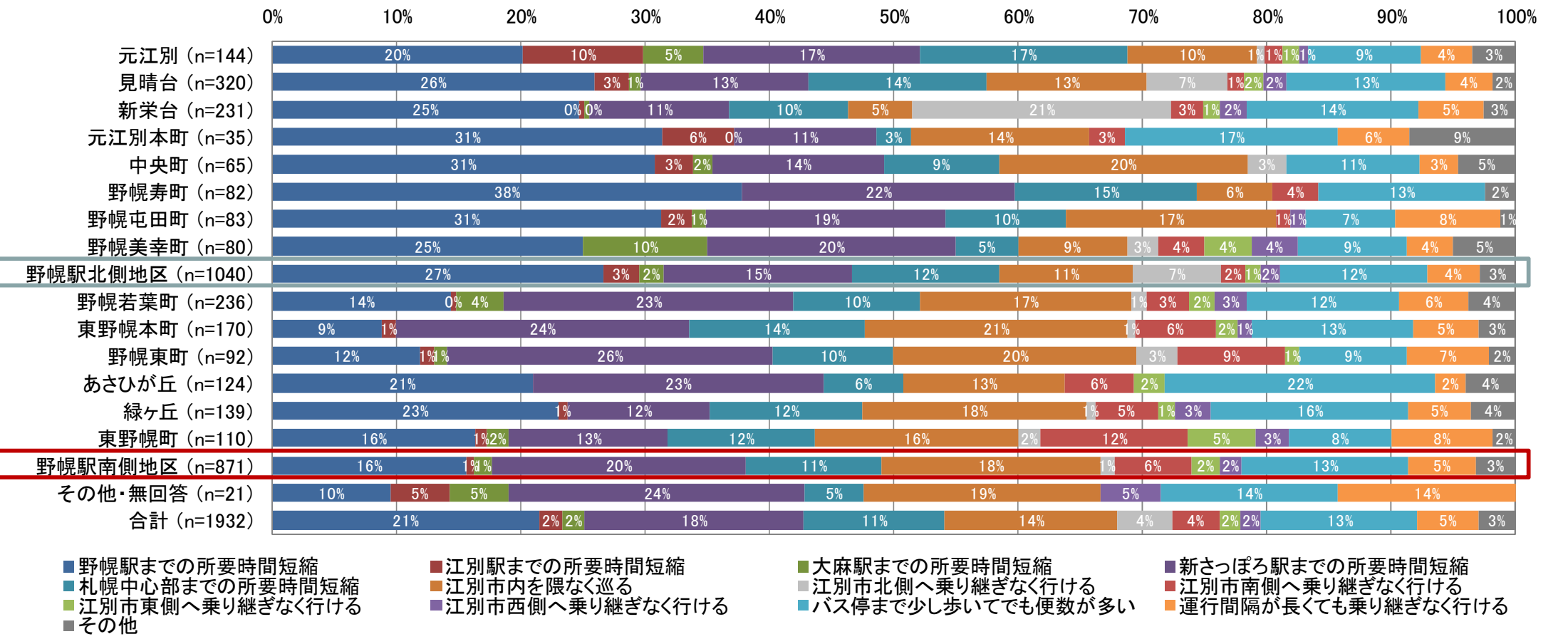
町別_移動手段別_買い物OD(あさひが丘)



これまでのアンケート調査等の結果について

3. 平成26年度実施アンケート調査(野幌地区)

■路線バスの新設で希望する路線



4. 平成27年度実施アンケート調査 （江別錦町線及び江別4番通線沿線地域）

これまでのアンケート調査等の結果について

4. 平成27年度実施アンケート調査(江別錦町線及び江別4番通線沿線地域)

■調査結果概要

- ・実証運行路線 野幌見晴台線の利用が想定される、江別3番通線以北の地域を対象に新聞折込によるアンケート調査を実施。

バス利用者の目的地(停留所・施設)

- ・降車する停留所は、「野幌駅」及びその周辺が多く挙げられており、行き先となる目的地は、新さっぽろが多く挙げられている。(P.29～30)

バス利用者の要望・意見

- ・路線バスの利用状況として、冬期や雨天時における代替手段として利用している旨の回答が多く挙げられている。(P.31)
- ・運行サービスについては、野幌見晴台線の本格運行の希望や運行経路への不満、増便(特に、通勤・通学時間帯)に関する要望が多くなっている。(P.31)

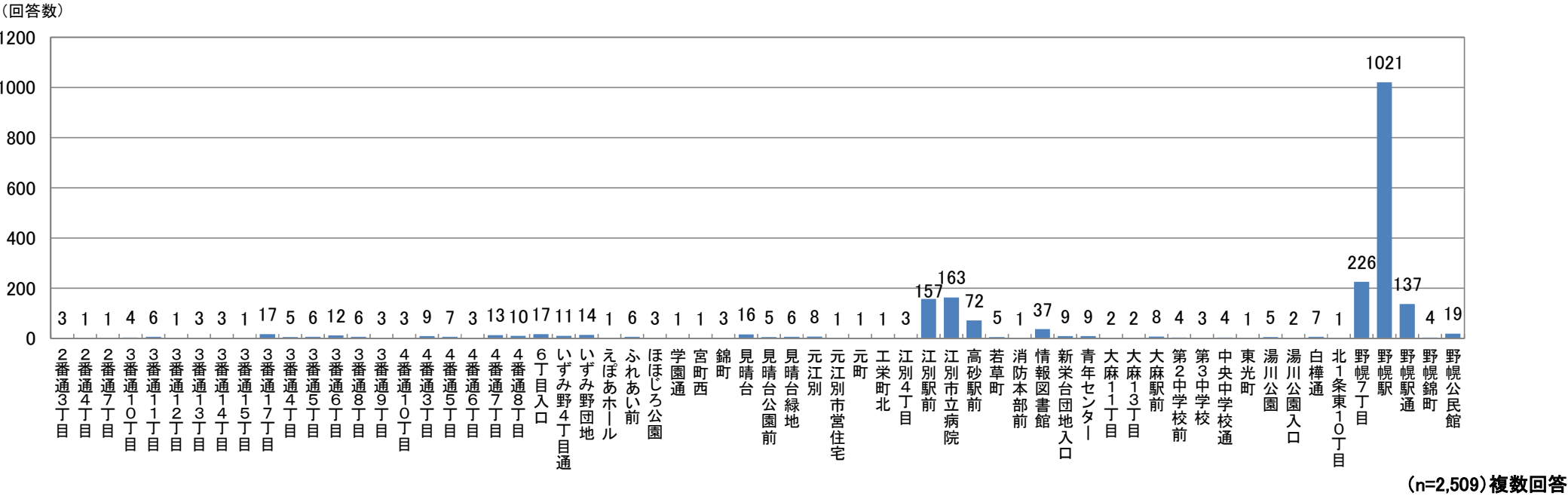
非利用者におけるバスを利用するための条件

- ・路線バス非利用者は、現状自家用車を利用していることから、路線バスの利用意向がないとの回答が最も多い。(P.32)
- ・挙げられた条件としては、運行ルートの変更や増便が多くなっており、また、停留所の新設を挙げる意見も多くなっている。(P.32)

これまでのアンケート調査等の結果について

4. 平成27年度実施アンケート調査(江別錦町線及び江別4番通線沿線地域)

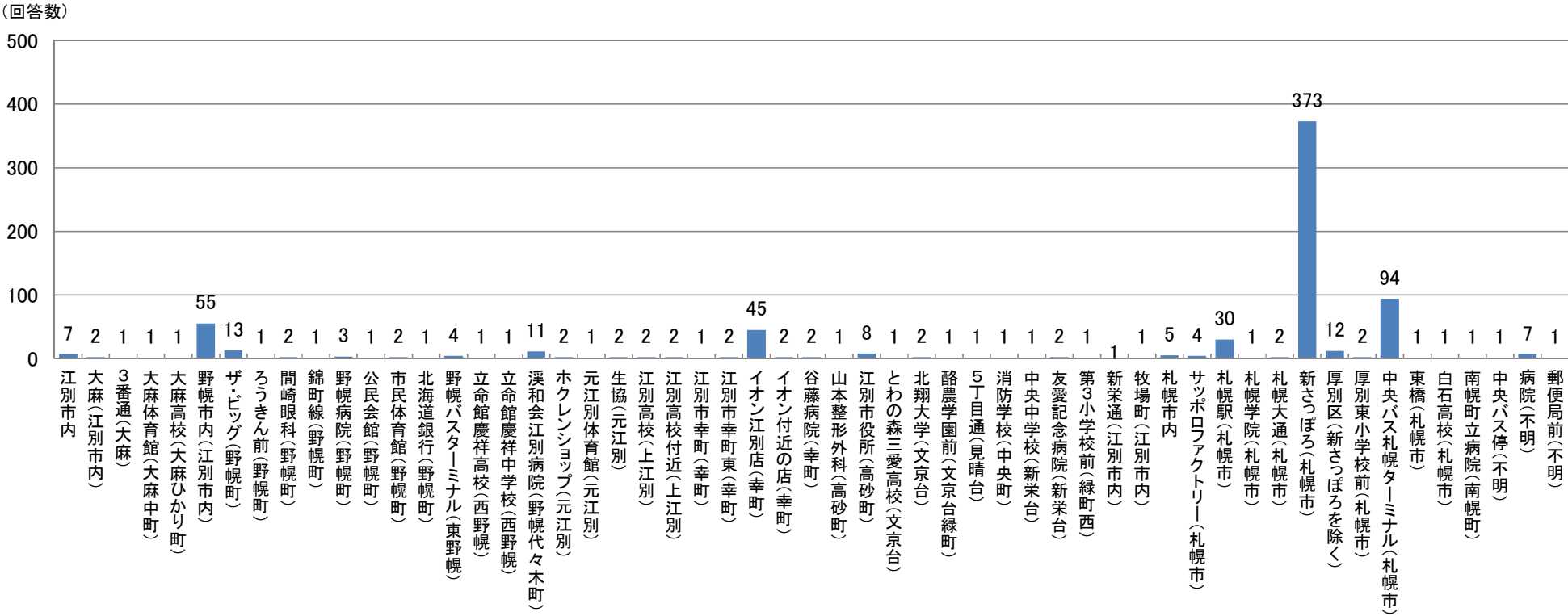
■路線バスの行き先(停留所)



これまでのアンケート調査等の結果について

4. 平成27年度実施アンケート調査(江別錦町線及び江別4番通線沿線地域)

■路線バスの行き先(施設等)

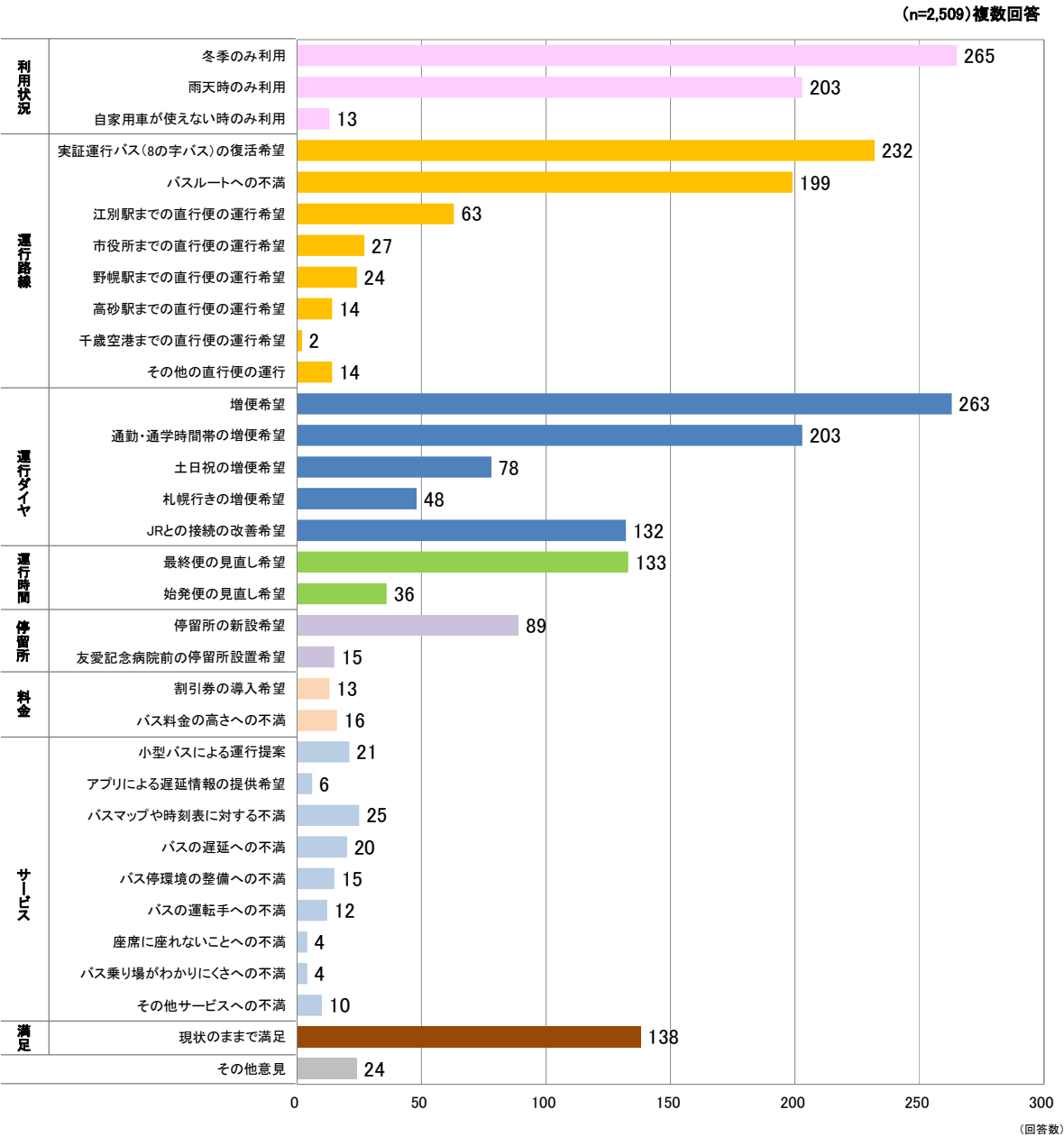


(n=2,509)複数回答

これまでのアンケート調査等の結果について

4. 平成27年度実施アンケート調査(江別錦町線及び江別4番通線沿線地域)

■路線バス利用者(予定者)の要望・意見



これまでのアンケート調査等の結果について

4. 平成27年度実施アンケート調査(江別錦町線及び江別4番通線沿線地域)

■非利用者の路線バス利用のための条件

